

序

本書は先に刊行された土屋一洋氏，山田 恵氏，森 墾氏編集による『圧倒的画像数で診る！頭部疾患 画像アトラス』の腹部編である。

一般的な教科書における画像診断の解説は，疾患ごとに典型的な画像を示し説明を加えるというパターンを基本としているが，日常診療では非典型例に遭遇することも少なくない。例えば，画像から稀な悪性腎腫瘍が疑われる場合であっても，common diseaseである腎細胞癌と診断されることが多いのが実状である。また，術前診断困難であった症例が，手術や生検の結果，悪性リンパ腫や結核などのcommon diseaseであったという経験をおもちの方も多きことと推察する。このように，ある病態がさまざまな要因により多彩な画像所見を示しうることはしばしば体験するところだが，この点に関して従来の書籍が十分対応できていたかという点，そうでなかった可能性もある。本書はそのような点をカバーすべく，典型例から応用例まで約2,000点にもおよぶ画像を掲載し，画像診断の読影力を極めることを目的に企画・編集された。

本書の特徴は，1) 掲載する画像の数が豊富である，2) common diseaseにおける多彩なバリエーション画像が掲載されている，3) 鑑別疾患，ピットフォールも解説されている，の3点である。臓器別に肝臓，胆道，膵臓，脾臓，消化管，腎臓，尿管・膀胱，男性生殖器，副腎，後腹膜，子宮，卵巣・卵管の12章に外傷を加えた13章から成り，重要度の高い106疾患を項目として取り上げた。

執筆をお願いした先生方には編者の思いを汲み取っていただき，豊富な画像を提供していただいた。同一疾患でもさまざまな症例を示していただき，同一症例においても診断のポイントとなる画像はもちろんのこと，参考になると思われる画像を数多く提示していただいた。また，重要疾患の代表的画像から非典型的な画像までが示され，腹部画像診断において知っておくべき画像スペクトラムを学べるように工夫されている。本書が画像診断に携わる多くの方々のお役に立つことができれば幸甚である。

最後に，執筆を快くお引き受け下さった先生方ならびに企画・編集に携わって下さった羊土社編集部の嶋田達哉氏，溝井レナ氏にこの場をお借りして心より感謝申し上げたい。

2014年9月

昭和大学医学部放射線医学講座
後閑武彦